

■児童・生徒の学力の状況

○「R7全国学力・学習状況調査」の結果から、主要3教科すべてにおいて全国および東京都の公立学校の平均を上回っており、高い学力水準にある。  
○知識・技能を問う問題では、安定して高い得点力を維持しており、46.8%の生徒が授業に積極的に取り組む、全国平均を上回った。授業への参加意欲が高いことが伺える。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題  
※「読み解く力」の育成を踏まえて

○「自分の言葉で論理的に説明し、表現する力」に関して正答率が全国平均より下回る傾向があり、「知識・技能」は身につけているが、「思考の表現力」に課題が残る。  
○高い学力を持ちながら、学習習慣の確立が場当たり的にしている生徒が半数を占めている。学習の自己管理能力（計画性）の改善を図る必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○生徒が「主体的・対話的で深い学び」「協働的・探究的・問題解決的な学び」を展開し、「個別最適な学び」を実現していけるよう「学び」を生活につなげる取り組みができる授業改善を進める。  
○理解を深める有効なツールとして、一人一台端末を含むICT機器を活用し、「Society5.0」を踏まえた人材育成、生活に生かせる学力の獲得、教科や生活とのつながりを意識した指導を実践する。  
○「板橋区授業スタンダードS」を徹底し、見通しをもたせた授業を展開し、基礎的・基本的な学力の定着と思考力・判断力・表現力等の育成を図り、生徒が自己選択、自己決定、自己調整しながら学ぶ授業を取り入れていく。  
○家庭学習の習慣化（7年70分 8年80分 9年90分）を図り、自分で計画を立てて学習を進めていく学び方の指導を行い、生徒自らが課題を見つけ出し、主体的に取り組む態度の育成を推進する。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードSの徹底	読み解く力の育成	学習の自己管理能力の育成
○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。 ○理解を深める有効なツールとして、タブレットを含むICT機器を活用する。	○毎日の朝読書や教科書等を読む活動を通して、基礎的読解力の育成に努める。 ○各教科等の授業において、INPUT→THINK→OUTPUTを意識した積極的な授業を展開する。特に生徒が主体的にOUTPUTする場面を設定する。	○「振り返り」を重視した学習計画に基づき、日々の家庭学習を定着させる。 ○情報機器（タブレット、スマホ）の長時間利用という課題に対し、生徒自身が考え、ルールを決めるメディアリテラシー教育の充実を図る。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○若木小学校・中台小学校との学びのエリア研修による9年間を通した読み解く力の育成、総合的な学習の時間の年間計画を作成・実践していく。 ○児童・生徒の行事における交流の場を設ける。	○指導力向上推進校として、今年度の校内研究テーマを「生徒の主体的な学びを重視した授業の工夫・改善～主体的に探求する生徒の育成～」と設定し、生徒の思考力・判断力・表現力を高めるために教科のつながりを意識させる授業を展開し、その中で培った「協働的な学び」及び「主体的で対話的な学習態度」を「探究」につなげていく。	○各教科の学習と総合的な学習の時間をつなげ、一人一台端末を、問題解決の過程の様々な場面（課題設定、情報収集、整理分析、まとめ・表現）で、効果的に活用していく。 ○教育DX、生成AI（人工知能）など視野に入れ、理解を深める有効的なツールとして活用できる力を育てる。